

2020 年度 江戸川大学睡眠研究所年次報告

2021 年 10 月 1 日

I. 研究所の概要

I-1 目的

本研究所の規定には、研究所の目的として、睡眠に関する科学的知見の集積およびその普及が掲げられており、そのために具体的に遂行されるべき事項として、睡眠に関する研究、睡眠研究に関する外部機関との連携および共同研究、研究成果の発表等が挙げられている。

付録 1 睡眠研究所規程

I-2 沿革

本研究所は 2012 年 4 月に「眠りの不思議を解き明かし、眠りをとおして社会に貢献する」という基本方針を掲げ、初代所長である高澤則美（現 江戸川大学名誉教授）を中心として発足した。その当時、「睡眠研究所」を設置している人文系大学は国内に存在しておらず、本研究所は人文系大学としては、国内初の睡眠研究所と考えられる。その後、以下の年表等に示すように、研究所独自の活動を積み重ねている。

年表

2012 年 4 月	江戸川大学睡眠研究所発足 所長: 高澤則美 研究員: 福田一彦, 松田英子 客員教授: 白川修一郎, 堀忠雄, 杉田義郎, 廣瀬一浩 客員研究員: 木暮貴政, 松浦倫子, 浅岡章一 主要設備: シールドルーム (C 棟 2F), 汎用多チャンネルデジタル生体計測用アンプ (Polymate V ミユキ技研)
2012 年 8 月	ひらめき☆ときめきサイエンス開催 (以降, 5 年連続) 客員研究員に望月芳子が加わる
2012 年 11 月	デジタル 64 チャンネル脳波計 (Brain Products 社製 BrainAmp) 導入
2013 年 4 月	浅岡章一が研究員となる
2013 年 8 月	ひらめき☆ときめきサイエンス開催
2013 年 9 月	第 1 回 すいみんの日 市民公開講座 開催 (以降, 2019 年まで毎年継続)
2014 年 8 月	ひらめき☆ときめきサイエンス開催
2014 年 9 月	第 2 回 すいみんの日 市民公開講座 開催
2015 年 3 月	松田英子が転出

- 2015年4月 福田一彦が第2代所長に就任
高澤則美が研究員となる
- 2015年8月 ひらめき☆ときめきサイエンス開催
- 2015年9月 第3回 すいみんの日 市民公開講座 開催
- 2016年4月 山本隆一郎が研究員となる
- 2016年8月 ひらめき☆ときめきサイエンス開催
- 2016年9月 第4回 すいみんの日 市民公開講座 開催
- 2017年2月 汎用多チャンネルデジタル生体計測用アンプ（ミユキ技研製 Polymate V）
を追加導入
- 2017年3月 高澤則美が客員教授となる
- 2017年5月 第35回日本生理心理学会大会開催
- 2017年9月 第5回 すいみんの日 市民公開講座 開催
- 2017年10月 研究所の定例会議（運営委員会）が始まる
- 2017年11月 シンポジウム「眠育～次世代の健康・健やかな発達のための睡眠教育のあり方を考える～」を開催
- 2017年12月 西村律子が研究員となる
- 2018年4月 野添健太が睡眠研究所助教および研究員となる
- 2018年9月 第6回 すいみんの日 市民公開講座 開催
- 2018年10月 高校生のための心理学講座 開催
- 2019年1月 B棟5Fに実験室を移設（シールドルーム2部屋，防音室4部屋となる）
- 2019年9月 第7回 すいみんの日 市民公開講座 開催
- 2019年10月 第1回 睡眠研究所学術フォーラム開催（はじめてのR講習会 演者：愛知淑徳大学 平島太郎先生）
- 2020年1月 第2回 睡眠研究所学術フォーラム開催（江戸川大学睡眠研究所-パラマウントベッド社共同研究成果報告 演者：野添健太）
- 2020年2月 第3回 睡眠研究所学術フォーラム開催（PsychoPy Builder & PavloviaによるWebブラウザを用いた心理学実験 演者：愛媛大学 十河宏行先生）
- 2020年4月 外出自粛中により睡眠を確保するための5つのヒント を公開
睡眠研究所規程を改訂
- 2020年9月 原 真太郎が客員研究員となる
- 2020年10月 『毎日しっかり眠って成績を伸ばす 合格睡眠』を学研プラス社から出版
- 2021年3月 第4回 睡眠研究所学術フォーラム開催（Web開催）（初心者が教える初めての系統的レビュー・メタ分析 演者：山本隆一郎）
第5回 睡眠研究所学術フォーラム開催（Web開催）（Web実験実施のためのPavloviaの運用と活用 演者：浅岡章一）

I-3 組織 (2020 年度)

研究所所長: 福田一彦 (人間心理学科教授)

研究所次長: 浅岡章一 (人間心理学科准教授)

研究所併任教員: 西村律子 (人間心理学科准教授), 山本隆一郎 (人間心理学科准教授)

研究員: 野添健太 (睡眠研究所助教)

客員教授: 廣瀬一浩 (慶愛病院院長), 堀忠雄 (広島大学名誉教授), 白川修一郎 (睡眠評価研究機構代表), 杉田義郎 (大阪大学名誉教授), 高澤則美 (江戸川大学名誉教授)

客員研究員: 原真太郎 (早稲田大学人間総合研究センター招聘研究員)※, 木暮貴政 (パラマウントベッド睡眠研究所所長), 松浦倫子 (北海道大学大学院学術研究員), 望月芳子 (江戸川大学人間心理学科非常勤講師)

※ 2020 年 9 月より

II. 運営委員会

II-1 概要

睡眠研究所の規定に則り，本研究所の運営方針及び事業計画は運営委員会において議論のうえ決定されている。原則として運営委員会の委員長は所長が務め，委員は研究所次長，研究所併任教員，研究員となり，毎月開催されている。ただし，本年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から，全ての運営委員会は Web 上の会議システム（Google Meet）を用いて行われた。

II-2 開催記録（2020 年度）

2020 年度 第 1 回運営委員会	(2020 年 4 月 20 日)
” 第 2 回 ”	(2020 年 5 月 15 日)
” 第 3 回 ”	(2020 年 6 月 12 日)
” 第 4 回 ”	(2020 年 7 月 10 日)
” 第 5 回 ”	(2020 年 8 月 7 日)
” 第 6 回 ”	(2020 年 9 月 7 日)
” 第 7 回 ”	(2020 年 10 月 8 日)
” 第 8 回 ”	(2020 年 11 月 13 日)
” 第 9 回 ”	(2020 年 12 月 4 日)
” 第 10 回 ”	(2021 年 1 月 15 日)
” 第 11 回 ”	(2021 年 2 月 12 日)
” 第 12 回 ”	(2021 年 3 月 5 日)

III. 研究活動

III-1 概要

2020 年度には、研究所の構成員それぞれが行う研究と並行して、研究所としての組織的研究プロジェクトを学内研究助成を受け新規に立ち上げた。主たる研究業績として、2020 年度は著書 6 件、学術論文 8 本、学会発表 2 件、競争的研究資金獲得 7 件（継続含む）となった。

III-2 学内研究助成研究プロジェクト

2020 年度には、研究課題「大学生における睡眠習慣が大学生活に与える影響—縦断調査を用いた検討—」を学内研究助成に睡眠研究所として応募し採択された。これは、本学大学生における睡眠習慣の変化を縦断的に調査し、大学生活に与える睡眠の影響を詳細に検討するとともに、学業に直接的に関わる変数のみならず、様々な認知機能や質問紙調査により測定される変数との関連を検討し、睡眠習慣の乱れが引き起こす問題を包括的に検討して行くための睡眠習慣データベースを構築していく事を目指したものであった。この取り組みは、本研究所の研究成果創出のみならず、本学学生の適切な睡眠習慣の確立や維持を通じて、学生の心身健康の維持や、退学・留年率の低減にも貢献するものと考えられる。しかしながら、2020 年度は COVID-19 の流行に伴う外出自粛要請や授業のオンライン化により、通常と大きく異なる睡眠習慣となる事、および学生の卒業研究の多くがオンラインでの調査になるために生じる参加者の負担の増加が懸念された事から、本格的な調査は見合わせる事とし、小規模なオンラインでの睡眠調査や Web ブラウザを介した認知課題の実施に関する知見の集積と予備的調査の実施を行うに留めた。2021 年度には本格的な調査をスタートする予定としている。

III-3 研究成果一覧

著書

- 福田 一彦 (2021) . 「子どもの眠り、『作文・絵画コンクール』『ポスターコンクール』について」『公益財団法人 精神・神経科学振興財団記念誌・業績集』公益財団法人 神経研究所 (P. 139)
- 福田 一彦 (2020) . 「IX. 睡眠時随伴症候群, 5. 反復性孤発性睡眠麻痺と悪夢障害」『最新臨床睡眠学 (第 2 版) —睡眠障害の基礎と臨床—』日本臨牀社 (Pp. 493-497)
- 江戸川大学睡眠研究所 (編) 福田 一彦・浅岡 章一・山本 隆一郎・西村 律子・野添 健太・原 真太郎 (2020) 『毎日しっかり眠って成績を伸ばす 合格睡眠』学研プラス
- 福田 一彦 (2020) . 「11.7 不登校 (Pp.357-361)」「12.1 乳幼児の睡眠 (Pp.362-366)」「13.4 反復孤発性睡眠麻痺 (金縛り体験) (Pp.394-397)」日本睡眠学会 (編) 『睡眠学 (第 2 版)』朝倉書店

- 浅岡 章一 (2020) . 「12.2 児童・青年期の睡眠」日本睡眠学会 (編)『睡眠学 (第2版)』朝倉書店 (Pp.366-369)
- 山本 隆一郎 (2020) . 「15.3 家庭における睡眠衛生教育」日本睡眠学会 (編)『睡眠学 (第2版)』朝倉書店 (Pp.424-428)

学術論文

- Fukuda, K., Asaoka, S., Kaki, C., Yokoyama, S., and Hirai, K. (2021). Changing "white and bright" light to "dim and umber" one had significant effects on residents' sleep patterns. 江戸川大学紀要, 31, 31-37.
- Yoshii, E., Akamatsu, R., Hasegawa, T., and Fukuda, K. (2020). Relationship between maternal healthy eating literacy and healthy meal provision in families in Japan. Health Promotion International, 1-8. doi: 10.1093/heapro/daaa094
- Hasegawa, T., Kawahashi, I., Fukuda, K., Imada, S., and Tomita, Y. (2020). Reliability and validity of a short Japanese version of the UPPS-P Impulsive Behavior Scale. Addictive Behaviors Reports, 12, 100305. doi: 10.1016/j.abrep.2020.100305
- Fukuda, K., Shibata, Y., Sato, H. & Okabe, S. (2020). How the large-scale blackout following the 2018 Hokkaido Eastern Iburu earthquake impacted adolescents' sleep patterns. Sleep and Biological Rhythms, doi: 10.1007/s41105-020-00278-6
- 原 真太郎・山本 隆一郎・田中 圭介・野村 忍 (2020). 大学生における心配に関するメタ認知的信念と入眠困難との関連：認知的覚醒を媒介とした検討. 心身医学, 60, 241-248.
- 原 真太郎・田中 春仁・川嶋 宏行・山本 浩彰・野中 泉美・山本 隆一郎・Broomfield M Niall・野村 忍 (2020). Metacognitions Questionnaire-Insomnia 短縮版の開発および信頼性と妥当性の検討. Journal of Health Psychology Research, 33, 1-18.
- Nozoe, K., Fukuda, K., Kogure, T., Shiino, T., & Asaoka, S. (2020). Does upper-body elevation affect sleepiness and memories of hypnagogic images after short daytime naps? Consciousness and Cognition, 80, 102916.
- 山本 隆一郎 (2020). 特集 コロナ禍の今だから知っておきたいところの不調：不眠・不眠障害. 月刊ナーシング, 40, 27-34.

学会発表

- 野添 健太・浅岡 章一・木暮 貴政・椎野 俊秀・佐々木 大輔・小林 美咲・福田 一彦
レム睡眠期における体性刺激が覚醒後の眠気等に及ぼす影響 日本臨床神経生理学会
第50回学術大会, 京都 (Web 開催), 2020/11/26-28
- 西村 律子・浅岡 章一・平島 太郎 ストレス暴露時の実行系機能に与える共作者の影響
日本心理学会第84回大会, 東京 (Web 開催), 2020/9/8-11/2

III-4 競争的資金の獲得状況

科学研究費補助金（継続を含む）

科学研究費補助金基盤研究（B）2020年度-2022年度

研究課題番号 20H01659

研究課題名『睡眠教育プログラムの教育現場における実証研究』

研究代表者：岡 靖哲

研究分担者：林 光緒・田中 秀樹・笹澤 吉明・樋口 重和・古谷 真樹・山本 隆一郎・田村 典久・綾部 直子・高田 律美

科学研究費補助金基盤研究（C）2019年度-2021年度

研究課題番号 19K03195

研究課題名『あなたがいるから頑張れる－社会関係が脅威場面での高次脳機能に及ぼす好影響の解明－』

研究代表者：西村 律子

研究分担者：平島 太郎・浅岡 章一

基盤研究（B）2018年度-2020年度

課題番号 18H01000

研究課題名『全国大規模調査による思春期小児の身体活動・生活習慣と睡眠の検討』

研究代表者：石井 好二郎

研究分担者：福田 一彦

基盤研究（C）2018年度-2021年度

課題番号 18K02492

研究課題名『幼児の生活習慣改善と不登校：昼寝，照明，入浴時刻からの検討』

研究代表者：福田 一彦

基盤研究（B）2017年度-2021年度

課題番号 17H01952

研究課題名『幼児の生活リズム・食・親子関係を基盤とした総合的な健康教育プログラムの開発』

研究代表者：長谷川 智子

研究分担者：福田 一彦

学内研究助成

江戸川大学学内共同研究 2020 年度

研究課題名『大学生における睡眠習慣が大学生活に与える影響—縦断調査を用いた検討—』

研究代表者：福田 一彦

共同研究者：山本 隆一郎・西村 律子・浅岡 章一・野添 健太・原 真太郎

江戸川大学学内共同研究 2020 年度

研究課題名『大学生における前頭葉機能低下と社会適応』

研究代表者：浅岡 章一

共同研究者：西村 律子・野添 健太

III-5 その他

なし

IV. 外部研究機関との連携, および共同研究

IV-1 概要

各研究所構成員はそれぞれが行う研究において独自に他研究機関の研究者との共同研究を行っている(競争的資金獲得状況を参照)。それに加えて, 研究所が組織的に取り組むものとしては, パラマウントベッド社との共同研究, および住環境研究所からの受託研究(後半は学術指導に変更)がある。

2018年2月に本学はパラマウントベッド社との間の約2年間にわたる共同研究に関して契約書を締結し研究費を受託した。この研究プロジェクトは, 電動ベッドの背上げ機能を利用した睡眠中の姿勢変化が意識状態にどのような影響があるかについて精査することを目的として行われた。この成果は, 2020年4月には国際誌に査読付き論文として掲載された。2019年度からは夜間睡眠実験を実施し, 夢体験の記憶に体性感覚刺激がどのような影響を及ぼすかを検討している。なお, この契約は2020年2月1日に更新され, 2022年3月まで継続となっている。

また, 住環境研究所とは2014年5月に「受託研究契約書」を交わし, 受託研究としては2014年度と2015年度の2年間, 2016年5月以降は, 「学術指導契約書」を交わし, 半年ごとに更新して2020年9月末日まで, 両契約を通算して6年半にわたる研究を継続して行った。具体的な研究内容としては, 住宅照明の照度と色温度を高照度・高色温度(明るい白い照明)から低照度・低色温度(暗くオレンジ色の照明)へと変更させることで生体リズムを前進させられることを明らかにしたり, 独居高齢者にAIで応答する小型ロボットをコンパニオンとして提供することで睡眠覚醒リズムに起こる変化などについて研究を行ったりした。さらに, 住環境研究所が独自に行った全国調査のデータ解析やその解釈についての助言を行うなどした。以上の研究成果のうちの一部は, 学会発表を行ったり, 本学紀要にて公刊を行っている(Fukuda *et al.*, 2021)。また, 住環境研究所のプレスリリースでも確認することができる。

IV-2 関連研究業績

学術論文(再掲)

- Nozoe, K., Fukuda, K., Kogure, T., Shiino, T., & Asaoka, S. (2020). Does upper-body elevation affect sleepiness and memories of hypnagogic images after short daytime naps? *Consciousness and Cognition*, 80, 102916.
- Fukuda, K., Asaoka, S., Kaki, C., Yokoyama, S., & Hirai, K. (2021). Changing "white and bright" light to "dim and umber" one had significant effects on residents' sleep patterns. *江戸川大学紀要*, 31, 31-37.

学会発表（再掲）

- 野添 健太・浅岡 章一・木暮 貴政・椎野 俊秀・佐々木 大輔・小林 美咲・福田 一彦
レム睡眠期における体性刺激が覚醒後の眠気等に及ぼす影響 日本臨床神経生理学会
第 50 回学術大会, 京都 (Web 開催), 2020/11/26-28

V. 研究成果の社会還元等

V-1 概要

2020年度は研究成果の社会還元の一環として、睡眠研究所が中心となって高校生向けの書籍を編集・執筆した。また、講演10件、取材対応および解説記事等執筆14件が研究所の構成員により行われた。睡眠研究所構成員を含む学内研究者の研究技術・技能の研鑽を目的とした睡眠研究所学術フォーラムを2回実施するとともに、COVID-19の感染拡大に伴う外出自粛中の睡眠健康の維持を目的として「外出自粛中によい睡眠を確保するための5つのヒント」を作成し公表するなど、研究成果の社会還元積極的に取り組んだ。

V-2 江戸川大学睡眠研究所学術フォーラム

本研究所は研究の技術・技能の研鑽のため、2019年度から学内外の研究者を講師として研究セミナー（学術フォーラム）を年に複数回実施してきた。今年度はCOVID-19の流行を受けて、2020年度オンラインでの開催となったが、山本研究所併任教員が講師となり第4回セミナーとして系統的レビュー・メタ分析を取り上げ（2021年3月11日開催：初心者が教える初めての系統的レビュー・メタ分析）、第5回では浅岡次長が講師となりWeb実験実施のためのサーバーサービスの活用に関するセミナーを行った（2021年3月25日開催：Web実験実施のためのPavloviaの運用と活用）。これらのセミナーは睡眠研究所外メンバーも参加する形で行われ、睡眠研究所のみならず本学の研究レベル向上に寄与している。

V-3 「毎日しっかり眠って成績を伸ばす 合格睡眠」の編集・執筆

2020年10月には、学研プラス社から江戸川大学睡眠研究所（編）「毎日しっかり眠って成績を伸ばす 合格睡眠」を出版した。この本の執筆は、睡眠研究所のスタッフが分担し、これまでの研究成果を基に、正しい睡眠の知識を高校生にもわかりやすい形で紹介する内容の書籍となっている。

V-4 「外出自粛中によい睡眠を確保するための5つのヒント」の作成・公表

現在、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、全世界で、在宅状態が生物リズムや睡眠への影響を介して心身の健康に悪影響を与えることが危惧されている。そこで、本研究所では山本研究所併任教員が中心となって「外出自粛中によい睡眠を確保するための5つのヒント（以下、「5つのヒント」と略称）」を注意啓発文書として作成した。日本語版と英語版へのリンクを本学のトップページに設置したところ、多方面から注目を集め、山本研究所併任教員はメディアからも多くの取材を受けた（NHK総合「ニュースシブ5時」、LIFUL HOME'S PRESS, NHK総合「ひるまえほっと～関東甲信越～」、「こころ」のための専門メディア 金子書房 note 等）。また、この「5つのヒント」は日本行動医学会をとおして国際行動医学会に提供された後、国際行動医学会のニューズレターで英語版が紹介されるなど

国際的にも注目を集めた。

V-5 講演等

- 福田 一彦 学校法人亀之森住吉学園天神保育園研修会講演（オンライン（Zoom）にて実施）「睡眠と健康について 一目からウロコの眠りの真実」講師（2020年6月22日@オンライン開催）
- 福田 一彦 パラマウントベッド報道関係者向けセミナー「すいみんの「リズム」をコントロールして健康を維持しよう」講師（2020年6月26日@パラマウントベッド京橋ショールーム「眠りギャラリーTOKYO」）
- 福田 一彦 パラマウントベッド報道関係者向けセミナー「すいみんの「リズム」をコントロールして健康を維持しよう」講師（2020年7月29日@パラマウントベッド京橋ショールーム「眠りギャラリーTOKYO」）
- 福田 一彦 墨田区保育園長会講演「睡眠と健康について 一目からウロコの眠りの真実」講師（2020年9月17日@墨田区役所）
- 福田 一彦 睡眠文化セミナー講演（オンライン（Zoom）にて実施）「コロナ禍で悪夢は増えたのか？」講師（2020年10月28日@オンライン開催）
- 福田 一彦 桜美林大学健康心理学フェア 2020 講演（オンライン（Zoom）にて実施）「あなたの知らない眠りの真実ー眠りの常識はデマだらけー コロナ禍の眠りへのインパクト」講師（2020年11月8日@オンライン開催）
- 福田 一彦 立教池袋中学校講演（オンライン（Zoom）にて実施）「眠り方で健康や成績は変わる」講師（2020年11月11日@オンライン開催）
- 福田 一彦 天理高等学校講演（オンライン（Zoom）にて実施）「眠り方で健康や成績は変わる」講師（2020年12月2日@オンライン開催）
- 浅岡 章一 国際基督教大学「学生の健康を考える会」公開講座 「大学生における睡眠健康維持 ～外出自粛期間中に特に気を付けるべき点について～」講師（2021年2月19日@オンライン開催）
- 福田一彦 エマスリープ日本上陸記者発表会 ゲストスピーチ「日本人の睡眠の特徴と新型コロナウイルス感染症 ー良い睡眠をとるためのヒントー」（2021年3月16日@オンライン開催）

V-6 取材・解説記事等

- 福田 一彦 TBS ラジオ「ACTION」「健康 HIP HOP プロジェクト コーナー(夢や金縛りについて解説)」出演（2020年4月1日放送）
- 山本 隆一郎 金子書房 note「外出自粛中によい睡眠を確保するための5つのヒント」コラム執筆（2020年5月9日公開）
- 山本 隆一郎 NHK 「シブ5時」「睡眠異変～ちゃんと眠れてますか～」出演（2020

年 5 月 12 日放送)

- 山本 隆一郎 Liful Home's Press 「眠れない，眠りの質が変わったかも？「外出自粛中
によい睡眠を確保するための 5 つのヒント」について江戸川大学睡眠研究所に聞いた」
取材協力（2020 年 5 月 14 日公開）
- 福田 一彦 日経 DUAL 「子どもの寝つきを良くする 入浴や照明・・・3 つの工夫」取
材協力（2020 年 5 月 25 日掲載）
- 福田 一彦 金子書房 note 「悪夢はコロナ・パンデミックにより引き起こされたのか？」
コラム執筆（2020 年 5 月 31 日公開）
- 山本 隆一郎 NHK 「ひるまえほっと～関東甲信越～」 「あなたの睡眠大丈夫？」 出演
（2020 年 6 月 3 日放送）
- 福田 一彦 公益財団法人神経研究所・睡眠健康推進機構ねむりんねっと 「どうして夢
を見るの？」 コラム執筆（2020 年 7 月 30 日公開）
- 福田 一彦 公益財団法人神経研究所・睡眠健康推進機構ねむりんねっと 「コロナ・パ
ンデミック・ドリーム 一気にすれば気にするほど悪夢は多くなる？」 コラム執筆
（2020 年 8 月 11 日公開）
- 福田 一彦 読売中高生新聞 「眠るって大事」取材協力 （2020 年 8 月 21 日掲載）
- 浅岡 章一 大修館書店 保体編集部 ONLINE 「睡眠不足が原因で起こる「こころ」の
問題には どんなものがあるか？」 コラム執筆（2020 年 8 月 26 日公開）
- 福田 一彦 「ニュートン別冊 健康の科学知識（食事と睡眠の科学知識・金縛り なぜ
動けない？ どんなときにおきる？）」取材協力 （2021 年 1 月 5 日発行）
- 福田 一彦 NHK 総合（チコちゃんに叱られる！） 「金縛りって何？」 出演（2021 年 1
月 15 日，1 月 16 日放送）
- 福田 一彦 NHK 総合（あさイチ） 「冬の睡眠 SP」 出演（2021 年 2 月 22 日放送）

VI. その他

VI-1 研究所規程の変更

2020年4月には、研究所の規定を一部見直し、現状に即したものとしました。

VI-2 睡眠心理学・認知心理学実験室利用時の COVID-19 蔓延防止対策マニュアル作成

COVID-19 の流行によって、脳波等を用いた研究を行うことが全世界的に難しくなっている。そのような中、米国精神生理学会（「Psychophysiology」2020年57巻9号）および日本生理心理学会（「生理心理学と精神生理学」2020年38巻1号）のそれぞれの学会誌に新型コロナウイルス感染症流行下での実験プロトコルが紹介された。これらの指針をもとに睡眠研究所は、実験を研究所内で行う際の感染対策の基準「COVID-19 感染予防に対応した実験の手順書」を作成し、本学新型コロナウイルス感染症対策会議室にて承認を受けている。このように COVID-19 の感染拡大状況を見ながら、実験を安全に再開する準備を慎重に整えている。

VII. 付録

睡眠研究所規程

江戸川大学睡眠研究所規程

平成 24 年 2 月 21 日制定

(設置)

第 1 条 江戸川大学に、睡眠研究所（以下「研究所」という。）を置く。

(目的)

第 2 条 研究所は、睡眠に関する科学的知見の集積およびその普及を目的とする。

(事業内容)

第 3 条 研究所は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事項を行なう。

- (1) 睡眠に関する研究
- (2) 睡眠研究に関する外部研究機関との連携および共同研究
- (3) 研究成果発表
- (4) その他研究所の目的を達成するために必要な事業

(構成員)

第 4 条 研究所の構成員は、次のとおりとする。

- (1) 研究所所長
- (2) 研究所次長
- (3) 研究所併任教員
- (4) 研究員
- (5) 客員教授
- (6) 客員研究員

(研究所所長)

第 5 条 研究所に研究所所長を置く。研究所所長は、研究所の業務を統括する。

- 2 研究所所長は、学長が委嘱する。
- 3 研究所所長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。
- 4 研究所所長が任期の途中で欠けたとき、後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(研究所次長)

第 6 条 研究所に研究所次長を置く。研究所次長は、研究所所長の業務を補佐する。

- 2 研究所次長は、所長の推薦に基づき学長が委嘱する。
- 3 研究所次長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。
- 4 研究所次長が任期の途中で欠けたとき、後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(研究所併任教員)

第 7 条 研究所に研究所併任教員を置く。研究所併任教員は、研究所の業務を遂行する。

- 2 研究所併任教員は、所長の推薦に基づき学長が委嘱する。
- 3 研究所併任教員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

(研究員)

第 8 条 研究所は、継続的な研究に従事する者が必要な場合に、研究員を置くことができる。

- 2 研究員は、研究所の専任教員とする。
- 3 研究員は、所長の推薦に基づき学長が委嘱する。

4 研究員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(運営委員会)

第9条 研究所の円滑な運営を図るため、運営方針及び事業計画を審議する運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

(1) 委員長

(2) 委員

3 委員長は、研究所所長とする。

4 委員は、研究所次長、研究所併任教員、研究員、および委員会が必要と認めた者とする。

(庶務)

第10条 研究所及び委員会に関する庶務は、企画総務課が行なう。

(雑則)

第11条 委員会の議事運営に関し、必要な事項は委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。